

日本酒のことなら私たちに

将女温泉原芦 へ取得師酒喇

顧客満足度を向上

14人勉強中

日本酒の知識深めもてなし向上を。あわら市の芦原温泉旅館協同組合将女の会に所属する全女将14人が、日本酒のソムリエ「喇酒師」の資格取得を目指している。仕事の合間を縫い試験に向け猛勉強中。同会の担当者は「日本酒は奥が深い。専門知識を身に付け自信を持って提供できるようにすることで、お客さまの満足度を高めていきたい」と意気込んでいる。

(高村友基)



喇酒師は日本酒サービス研究会・酒匠研究会連合会が主催・認定する資格。深い知識を身に付け、飲み手の好みにあった日本酒を見つけ出したりどのように飲むとよいか、おいしいかなど、コーディネートやアドバイスをする……

市内の旅館

る。女将たちはこれまで、酒屋から教えてもらった基礎的な知識でしか日本酒を提供できなかった。そこで、北陸新幹線金沢開業を見据え、専門的な知識をもって料理にあつた地酒を提供することで福井をPRし、芦原温泉全体で接客向上を図ろうと、女将の会として資格取得を目指すことにした。

会長は「内容は結構難しく不安な部分はあるが、お客さまをもてなすうえで必要な資格なので頑張りたい」と意欲を燃やし、「全員が取得することで、芦原温泉全体のもてなしの力を高めていきたい」と力を込めていた。

試験は3月中旬に行われ、日本酒の商品特性や製造方法などの基礎知識から、提供する上での効果的なサービス理論や季節別のセールスプロモーションなどの専門知識まで多種多様な内容が問われる。女将たちは試験に向けて、先週末から本格的な勉強をスタート。テキストやDVDを基に勉強に励んでいる。来月20、21日には、講師を招いた集中講義を行う予定。県内の酒蔵も見学することになっている。

女将の会の山口由紀